令和6年度 岡山県生涯学習センター運営協議会 第2回会議 議事概要

日時：令和6年11月12日（火）10：00～12：00

場所：岡山県生涯学習センター 講義棟1階 会議室

1 開会（あいさつ）

前回、議論していただいた「太陽の丘公園遊具整備」については、ワークショップ等を実施し、子どもたちの意見を参考にし、障害のある子どもも遊べるインクルーシブ遊具を取り入れ、安全・安心に遊べる公園として、来春開園予定である。「交流棟2階」についても、交流スペースの拡大・個別ブースの設定などを行っている。

2 議事

(1) 令和6年度事業の取組状況と課題について

ア 社会教育主事講習[B]

○事務局より、資料に基づき説明

（委員）

社会教育士という資格は昔からあったのか。

（事務局）

令和2年から法制化された資格である。それまでは講習を受け、発令されたら社会教育主事となっていたが、科目が変わり講習を受けると社会教育士と名乗れるようになった。

（委員）

講習自体は昨年までもやっていたか。

（事務局）

講習内容に変化はないが、これまで2年に一度、岡山大学が社会教育主事講習を行っていた。この度、毎年人材養成をすることを目的として、地方会場にエントリーした。従来は社会教育行政職員が主に取得していたが、企業や公民館等の地域の人々に活躍してもらいたいと考えた。

（委員）

県内の人に関心を持ってもらい、興味のある方はぜひ受けてほしいということか。

（事務局）

称号を持って活躍してほしい。

（委員）

社会教育士に求められる能力は、総合してマネジメント能力につながってくると思う。受講資格について、この基準だけで教育のできる人になり得るのか。

（事務局）

国で規定されており、基本的には大学等の養成課程で付与される。大学での養成も少なく、

国の機関で養成している。一定の水準を満たすことが条件だが、社会教育関係の職に2年以上従事経験があるという条件もあり、必ずしも大卒でなくともよい。マネジメント力についても様々な地域資源をつなぎ、地域の人々の暮らしやすさを実現していく力と捉えている。

(委員)

マネジメント力は机上でまかなえるものではない。この基準のいずれかを満たさないと社会教育士にはなれないのなら、学術的なもので、マネジメント力が向上するという点については疑問だ。多様性を問われている中、学歴で線引きをすることも疑問だ。本当に生きる力を身につけられるのか、このカテゴリで教育ができるのか。

(委員)

社会教育士という言葉になじみがないということもある。

(委員)

活動している中で、社会教育士の方が担ってくれたらいいと思うことがあるが、そういった人がいないと思っていた。受講者が今後、活躍できる場を実際に作っていくことができれば、社会の課題解決ができるのだろうと期待している。中間でつなぐ人が活躍すれば、物事が動いてくると思う。取得後の活躍の場が課題だと思う。

(委員)

社会教育士としてすぐに地域で活躍できるわけではなく、いろいろ場数をこなしていくことで、地域の方から育てられると思う。最初はうまくいかないことがあるとは思いますが、経験を積むことで、地域でリーダーシップを持てるようになる。

社会教育主事にとって代わるのではなく、併記されているということは何か意味があるのか。

(事務局)

必須単位を取得すれば社会教育士となり、市町村から発令を受けると社会教育主事となる。

(委員)

大学でも社会教育主事課程があるが、学習すれば社会教育主事となるのか。

(事務局)

社会教育主事は行政の役職の一つであり、発令を受ければ社会教育主事となる。

(委員)

社会教育主事講習という言い方もまぎらわしい。これまでは、行政の中で一定の条件を満たさないと社会教育主事とは名乗れないとなっていた。

(委員)

現在は岡山大学で2年に1度、受講をしているということもあるので、こういった機会が岡山で得られるのはよい。受けただけではなく経験につながっていくことになると思う。取得後、

現場で勉強する人たちを増やしていく一助になればよいと考える。

(委員)

社会教育士は馴染みがないが、それを価値あるものに変える取組をし、裾野を広げるきっかけになればよい。現在16市町村でしか発令されていないということも、行政のマネジメントは必要だと思う。

イ 生涯学習大学

○事務局より、資料に基づき説明

(委員)

岡山県の特性とはなにか。

(事務局)

歴史講座を開催しているグループや、県内企業、県内大学等と連携をしている。

(委員)

岡山の自然、産業、ひとづくりの関係か。証書を持っていれば、卒業証書のような価値を持ち、社会で有効なのか。単位を認定すれば、奨学金の減免等につながればやる気が出ると思う。メリットを考える必要がある。

(事務局)

生涯学習の範疇になると、充実した人生を送ってもらうということに主眼を置いている。県として取得単位に応じての特典は考えるべきところであり、課題ではあると考えている。

(委員)

ライフスタイルの観点だと思うが、生きるためには「ワーク」が大切だ。切り離して考えてはいけない。「ライフ」の要素が非常に大きい。

(事務局)

学ぶ人によって様々な目的があり、社会教育の視点で考えると、強制的に学ばせるものではない。評価は課題であり、行政側で評価をするというより、企業等が個人の学習活動を評価するようになってほしい。

(委員)

教育という言葉がつくと、他者からの力が働くと考えますが、学習となると自発的・主体的なもの、その人にとっての生きがいややりがいというものに価値があると考えます。それを他者からどう評価してもらうかというところが課題だと思う。

(委員)

生涯学習の価値を社会的に高めていくことが必要。生涯を通していくことの学びと仕事につ

いての学びは違うものではないかと考える。

来年度からの運営方針が変わるようだが、フォーラム参加者の減少についてはどう考えるか。

(事務局)

会場の変更(体育館→大研修室)や予算の問題もある。

(委員)

受講案内については、インターネットが苦手な方や自宅にプリンターがない方もいる。これまでどおり紙媒体で案内するなど、多様なニーズに対応してほしい。

(委員)

連携講座の受講者は減っていないのか。また、年齢層はどのようになっているか。

(事務局)

受講者は減っていない。集い・フォーラムの参加者を見ると中高年層が多い。生きがいに通じる学びになっているので、大切にしていきたい。紙媒体が必要な方にも対応をしていきたい。生涯にわたって学び続けてほしいと考えており、働き世代や若年層を取り込んでいきたい。

(委員)

内容の多様化はよいが、受講者の年齢が高いとIT化により離れてしまう可能性もある。過渡期であることを踏まえて、身近な公民館等で渡すなどの対応が必要だと考える。

のびキャンシートは昨今のご朱印帳ブームにも見られるように、このシートに価値があると考えるので、単位取得や修了について、シート自体にスタンプ等を押すという形式でもよいのではないかと。自分の学びの記録となり、賞状はいらぬ。HPでの氏名公表は公表しても満足度につながるとは思わない。違う形で満足度を上げてはどうか。

(委員)

過渡期でずいぶん変わると思う。フォーラムに参加している方は高齢の方が多く、運営方法の検証も含めて考えてほしい。高齢の方々の気持ちを大切にしてほしい。

(委員)

いきなり切り替えることは避け、特に70代の方には配慮していただきたい。

(委員)

幅広い受講生がいるので、学びを継続できるような配慮を望む。

(2) 令和7年度新規事業(案)について

○事務局より、資料に基づき説明

(委員)

県内各地とはどこか。

(事務局)

国立吉備青少年自然の家、森林事務所等の各施設である。

(委員)

各施設の方々に協力をしてもらおうということか。15名～20名程度というのは、毎回か。NPO等も専門的な知識は持っており、対象にならないのか。

(事務局)

初回は賛同してもらいやすいところと協働し、その実績を持って他団体にもアプローチしていきたい。

(委員)

良い挑戦だと思う。大人の学び・育ちには共感する。出展企業だけを対象とするのではなく、団体に所属している企業も対象としてほしい。

(委員)

体験の機会よりも対話の部分が狙いだと思う。例えば「だっぴ」が実施しているノウハウやファシリテーターの経験を導入してみてもどうか。

(委員)

社会教育士の方々の活躍の場として設定するのもよいと思う。

(委員)

多様な立場の人・世代・職業・価値観の違う人と出会えることが、学ぶということを核にした事業の魅力だと思う。ぜひ、外国人の方々に会う機会も作ってほしい。

(3) 人と科学の未来館サイピアについて

ア 令和6年度取組状況

○指定管理者より、資料に基づき説明

(指定管理者)

入場者数の減少について、利用校への聞き取り調査の結果、バス代等の高騰、運転手の働き方改革も原因となっているのではないかと考えている。

(委員)

プラネタリウム設備の老朽化問題があるが、保守点検を繰り返しながら使用しているのか。

(指定管理者)

来年度、プロジェクター等の更新について予算要求しているところである。

(委員)

来館者はバスで来ることが多数を占めるのか。

(指定管理者)

遠足シーズンは、バスの予約が困難である。料金設定や勤務時間等の調整ができない。

(委員)

エリアは県南だけか。

(指定管理者)

岡山県内全域をカバーしている。

(委員)

バス料金の問題については、県教委でも取り組んでいくべき。

(委員)

週休3日制が言われるようになってきている。土日は休みたいので、休みの日を使うことができなくなってきている。人手不足だけの問題では無くなってきているので、自己運営しかない状況になってきている。

イ 令和7年度事業計画(案)

○指定管理者より、資料に基づき説明

岡山大学、岡山理科大学、就実大学、津山高専の先生方の力をいただき作成している。

○科学実験等、年間100回以上実施、大学・企業・NPOとの連携を図りながら実施。

○企画展示、フランスソルボンヌ大学、岡山大学と協働で海洋生物の展示。

○プラネタリウム、自主制作番組の拡大を図る。ドーム内イベントも開催していく予定。

○学校理科教育、学校ではできない体験や実験をしていく。

(委員)

ほぼ県南での活動となっている。県北での活動はどう考えているか。

(指定管理者)

県南には施設が豊富なため、県南の子どもたちには来てもらいやすい。5mのエアドームや望遠鏡を持参し、観望会を開催するなど、岡山理科大学の学生にボランティアで参加してもらい、親子でプラネタリウムを観てもらっている。親に観てもらわないと、親がサイピアまで連れてきてくれない。青年団協議会が子どもゆめ基金の助成を受けている。移動には経費がかかるので助成金も利用している。その他にも、瀬戸内の離島も対象にしている。

(委員)

県北の公民館を拠点にして開催してはどうか。インフラを上手に利用してはどうか。

(委員)

県北は施設が少なく体験格差を感じていたが、移動プラネタリウム等で天文に興味を持てる体験が増えたらいい。子どもゆめ基金の話もあったが、本来は予算の面から体験格差を無くしていくことは、県の役割の一つである。先ほどのバスの問題と併せて、県北の子どもたちにも機会を確保できるようにしてほしい。学校理科教育の支援について、近くの学校を想定しているか。

(指定管理者)

全県下の科学担当の先生と相談しながら、内容を考え、実施している。

(委員)

会場はサイピアか。

(指定管理者)

サイピアにおいて遠足等で施設を利用する際に体験してもらう。実験担当者と教員が相談しながら内容を決めている。

(委員)

充実したプログラムと公園のリニューアルでとても魅力的になると思う。人員的に足りるのであればとてもよいと思う。

3 その他

(委員)

太陽の丘公園のリニューアルの際にはかなりの来館者が見込まれる。渋滞等も予想されるが、何か対策は考えているか。

(事務局)

春休み直前にリニューアルオープンするため、特に駐車場問題が課題である。乗り合わせや公共交通機関での来所を呼びかけるが、当分の間、土日祝日などの繁忙期は、警備員を雇い、駐車場の整理をすることを考えている。

その他に、HPやFBを活用し、駐車場や公園等の混雑状態を適宜示すことを検討している。